

A decorative background consisting of a cluster of hexagons in various shades of yellow and orange. Some hexagons are solid, while others are outlined or have a light gradient. The text is centered over this pattern.

1. 力をつけていくために

信頼関係があるということ

世の中にはスポーツ選手の力を伸ばす素晴らしい理論やメソッド（方法）があります。選手はそのメソッドを学び、それを実践することで力をつけていきます。

また、そのメソッドを学ぶ上でコーチ（指導者）の存在は重要です。選手はそのメソッドの指導をコーチから受け、その実践をコーチに客観的に評価してもらうことで、次の取り組みにつなげていきます。

このことはあまりにも当たり前のことですが、ここで考えたいことは、力を伸ばすのに何が一番必要なのかということです。選手の本来持っている力が大切なのでしょうか。それともよいメソッドさえあればよいのでしょうか。また別な考え方として、コーチの教え方が良いことが大事なのでしょうか。もちろんこの3つ全てがそろっていれば良いと考えられますが、この3つがあっても力をつけていくことが難しい場合があります。それは、選手とコーチの間に信頼関係がない場合です。

コーチへの信頼がなければ、コーチの言いたいことは伝わりません。それと同時にいくら素晴らしいメソッドであったとしても、そのコーチから聞くことで価値を見出せなくなります。このことから力を伸ばすのに一番必要なことという先ほどの問いの答えは、コーチとの信頼関係だということになります。ここでいう選手とコーチという言葉、人と人に置きかえてみても、やはり何をするにしても人と人との信頼関係が大事になります。そして何より相手とコミュニケーションをとる力もなくてはならないのです。

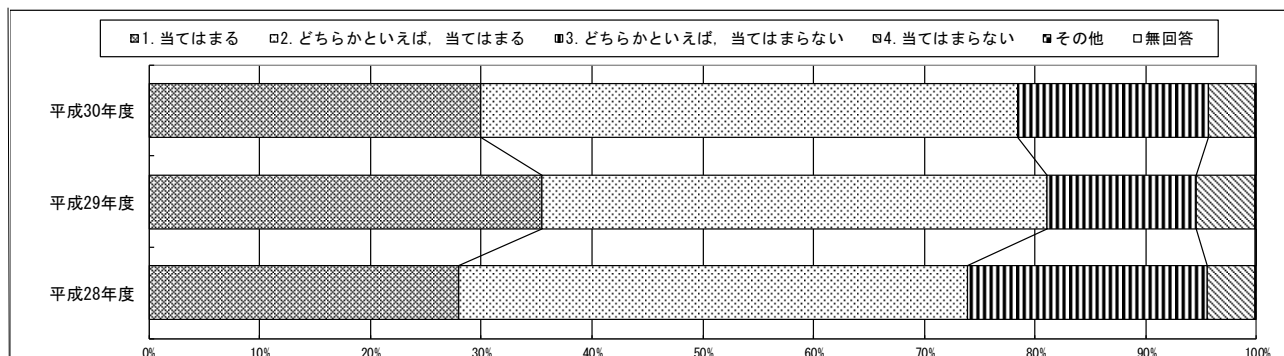
今回の調査では、児童・生徒質問紙でこれらについての質問がありました。⁶

⁶ 生徒指導については「中学校新学習指導要領解説総則編第4節1(1)(2)」に次のように記載されている。

「学校は、生徒にとって伸び伸びと過ごせる楽しい場でなければならない。生徒一人一人は興味や関心などが異なることを前提に、生徒が自分の特徴に気づき、よい所を伸ばし、自己肯定感をもちながら、日々の学校生活を送ることができるようにすることが重要である。」「学級経営を行う上で最も重要なことは学級の生徒一人一人の実態を把握すること、すなわち確かな生徒理解である。学級担任の教師の、日ごろのきめ細かい観察を基本に、面接など適切な方法を用いて、一人一人の生徒を客観的かつ総合的に認識することが生徒理解の第一歩である。日ごろから、生徒の気持ちを理解しようとする学級担任の教師の姿勢は、生徒との信頼関係を築く上で極めて重要であり、愛情をもって接していくことが大切である。」「生徒指導を進めていく上で、その基盤となるのは生徒一人一人についての生徒理解の深化を図ることである。一人一人の生徒はそれぞれ違った能力・適性、興味・関心等をもっている。また、生徒の生育環境も将来の夢や進路希望等も異なる。それ故、生徒理解においては、生徒を多面的・総合的に理解していくことが重要であり、学級担任の教師の日ごろの人間的な触れ合いに基づくきめ細かい観察や面接などに加えて、学年の教師、教科担任、部活動等の顧問教師、養護教諭などによるものを含めて、広い視野から生徒理解を行うことが大切である。また、思春期にあつて生活環境の急激な変化を受けている生徒一人一人の不安や悩みを目を向け、生徒の内面に対する共感的理解をもって生徒理解を深めることが大切である。生徒理解の深化とともに、教師と生徒との信頼関係を築くことも生徒指導を進める基盤である。教師と生徒の信頼関係は、日ごろの人間的な触れ合いと生徒と共に歩む教師の姿勢、授業等における生徒の充実感・成就感を生み出す指導、生徒の特性や状況に応じた的確な指導と不正や反社会的行動に対する毅然とした教師の態度などを通じて形成されていくものである。（次頁に続く）

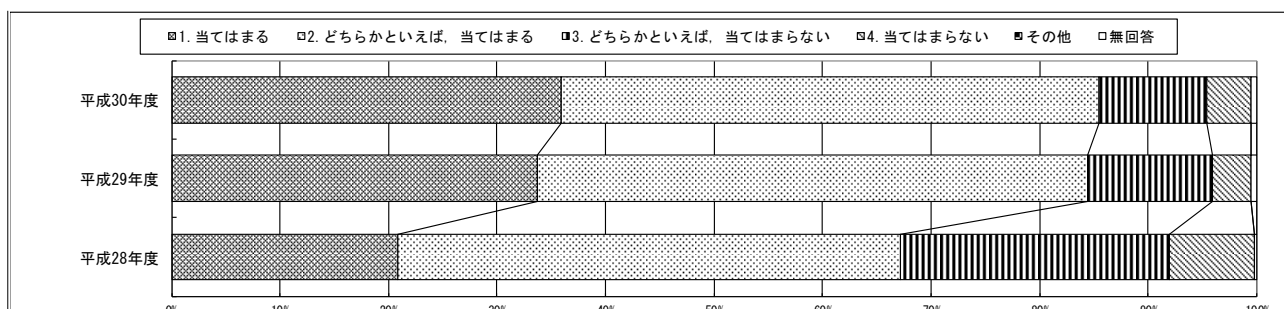
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(2)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	29.9	48.4	17.3	4.1			78.3		0.2	0.0
平成29年度	35.5	45.6	13.4	5.3			81.1		0.2	0.0
平成28年度	27.9	45.9	21.6	4.3			73.8		0.2	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(2)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	35.9	49.6	9.9	4.1				85.5	0.0	0.5
平成29年度	33.7	50.7	11.5	3.6				84.4	0.0	0.5
平成28年度	20.8	46.3	24.8	7.8				67.1	0.0	0.2



先述した通り、先生と児童・生徒との信頼関係がなければ、いくら教え方がよくても学習が身についていきません。児童・生徒質問紙の(2)は、「よいところを認める」という側面から、「児童・生徒が安心して学ぶことができる」という学習環境があるかどうかを示し

その信頼関係をもとに、生徒の自己開示も高まり、教師の生徒理解も一層深まっていくのである。また、学校教育は、集団での活動や生活を基本とするものであり、学級や学校での生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深く関わっている。生徒一人一人が自己の存在感を実感しながら、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていきける望ましい集団の実現は極めて重要である。すなわち、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見付けようと努める集団、互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団、言い換えれば、好ましい人間関係を基礎に豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ生徒指導の重要な目標の一つでもある。教育機能としての生徒指導は、教育課程の特定の領域における指導ではなく、教育課程の全領域において行わなければならないものである。

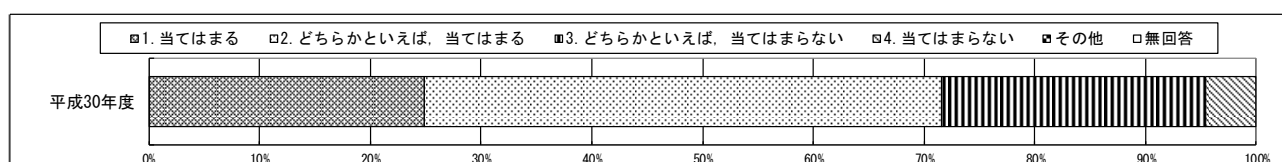
(小学校についても小学校新学習指導要領解説総則編第4節1(1)(2)に同様に記載されている。)

ています。つまり、ほとんどの児童・生徒が先生との信頼関係を築いており、その上に学習活動が成り立っているということが分かります。また逆に、2割程度の児童・生徒が当てはまらないと回答していますので、今後もより個に寄り添って傾聴し、やっていることを認め、先につながるアドバイスをするなど、温かな人間関係を構築していくことが大事であると、この結果は示しています。

また、信頼関係を築く上で必要なコミュニケーション能力の育成⁷については次のような結果が出ています。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(55)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	24.8	46.7	23.8	4.6			71.5		0.0	0.0



7 【新学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

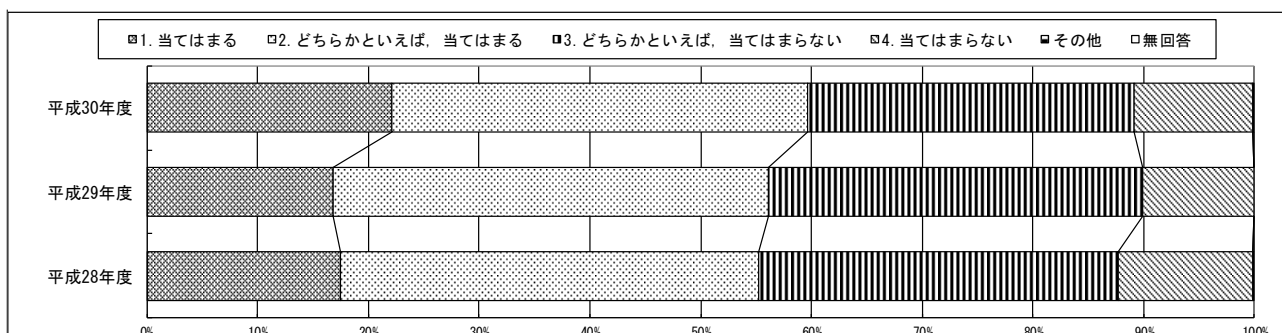
① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

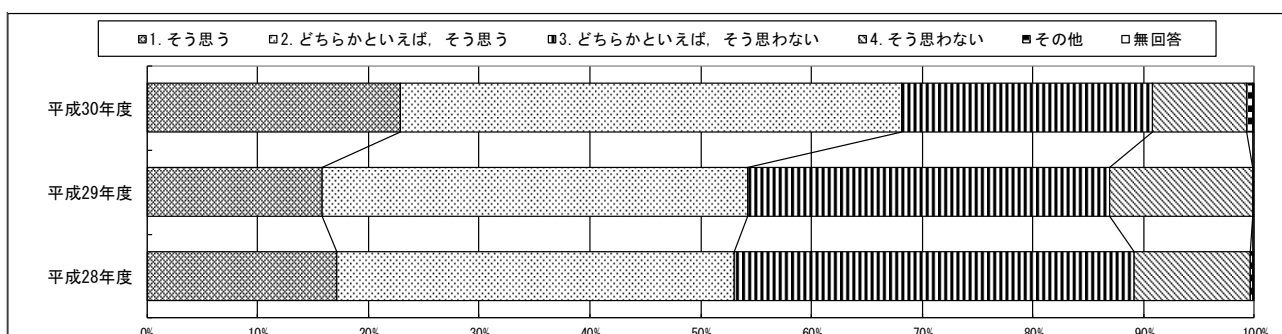
③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校新学習指導要領総則第3-1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

質問番号	質問事項									
(56)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	22.1	37.5	29.4	10.7			59.6		0.0	0.2
平成29年度	16.8	39.3	33.8	10.1			56.1		0.0	0.0
平成28年度	17.5	37.7	32.5	12.1			55.2		0.0	0.2

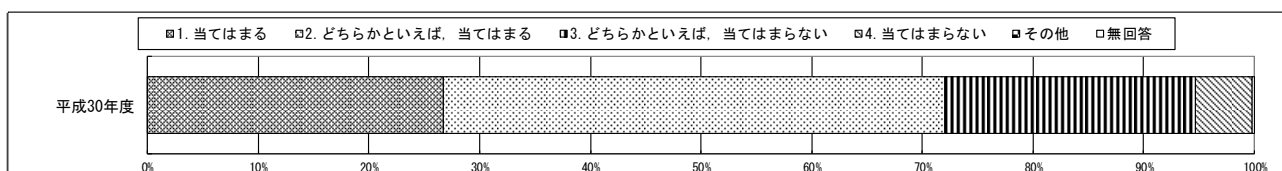


質問番号	質問事項									
(57)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	思う (1+2)		その他	無回答
平成30年度	22.9	45.3	22.6	8.5			68.2		0.5	0.2
平成29年度	15.8	38.4	32.6	12.9			54.2		0.0	0.2
平成28年度	17.1	35.9	36.1	10.4			53.0		0.2	0.2



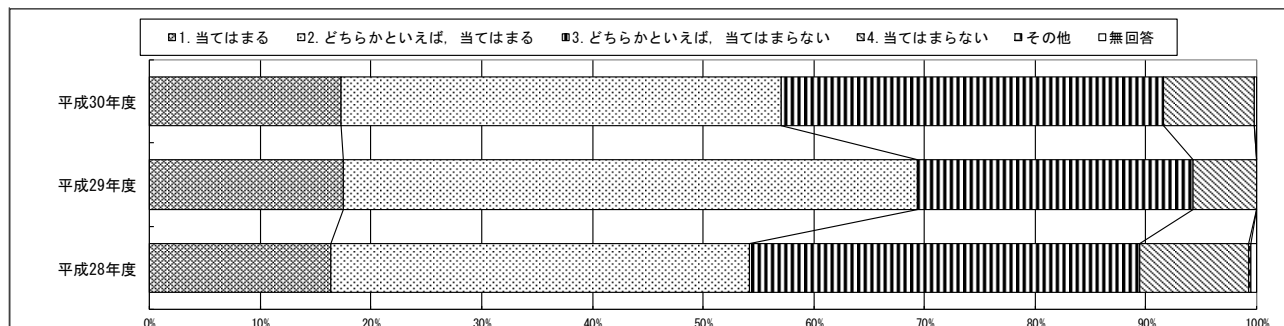
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(52)	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	26.7	45.3	22.7	5.1				72.0	0.0	0.2

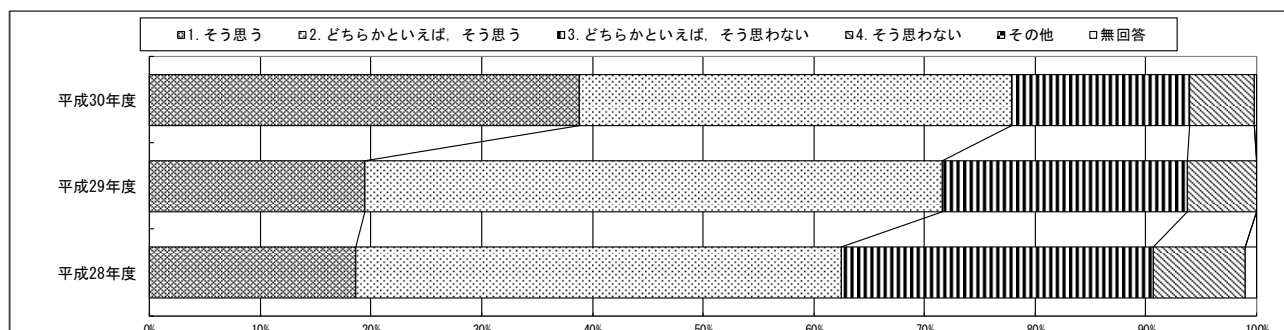


これらについては、これからの授業で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現についての調査となります。特にコミュニケーションについては、小学校児童質問紙（57）と中学校生徒質問紙（54）の結果に表れています。町内小学校、中学校とも新学習指導要領を意識した授業改善が行われており、授業での取り組みが児童・生徒が意識して行われるようになってきていることが、ここから分かります。

質問番号	質問事項									
(53)	1. 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	17.3	39.8	34.5	8.2				57.1	0.0	0.2
平成29年度	17.5	51.9	24.9	5.7				69.4	0.0	0.0
平成28年度	16.4	37.7	35.3	9.8				54.1	0.2	0.5



質問番号	質問事項									
(54)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	そう思う (1+2)	その他	無回答
平成30年度	38.8	39.0	16.1	5.8				77.8	0.0	0.2
平成29年度	19.4	52.2	22.2	6.2				71.6	0.0	0.0
平成28年度	18.6	43.9	28.2	8.3				62.5	0.0	1.0



これらの結果から、寒川町立小中学校では、先生と生徒の信頼関係の上に学習が積み上げられていること、また、児童・生徒同士でコミュニケーションをとることで学習を深めている実態があることが分かりました。

これからの社会を生きていくために必要な力として一番に挙げられるのはコミュニケーション能力だと言われていています。他者を批判して自分の正当性を通すことより、他者と協働してそれぞれの必要性の中からよいものを作っていく。小さな社会である学校でこのような方向性のもと教育活動を展開していくことは重要です。

先生が児童・生徒を認め、励ます。そのようにして作られる学習環境で児童・生徒同士が主体的・対話的で深い学びを実現していく。現在寒川町の教育では、それが実践できるようになっています。概ねできているからよいのではなく、できていない部分を明らかにすることとともに、そこにまで意識を配っていく。そのために一人ひとりの実情をしっかりと把握し、よくなることを願って支えていく。先述したコーチと同じく、人を育てていくということは、関わりを持って支えていくということ。この教育の基本をいつでも持っていることが大切です。

家庭の支えがあるということ

テレビドラマでは、主役を中心に話が進んでいきます。見る人はそこに自分を当てはめたり、自分との違いを感じて複雑な気持ちになったり、その考え方に共感したりして、話の中で繰り広げられる人間模様を楽しみます。その話に花を添えるのもまた人であり、時に脇役と呼ばれる人物にもまた、感情を移入して話の展開に胸を躍らせます。

テレビドラマの中ではなく、現実を生きている私たちは、誰もが自分の人生を歩いています。自分自身の考えだけで生きているのではなく、時には人の声に耳を傾けたり、また逆に自分の思いを伝えたりして、自分と他者との間に人間模様を紡ぎ出しています。テレビドラマで感じる様々な思いは、自分自身が他者を理解しようとする視点を持っている証であり、他者を理解できる力を持って他者と関わっていることを示しています。

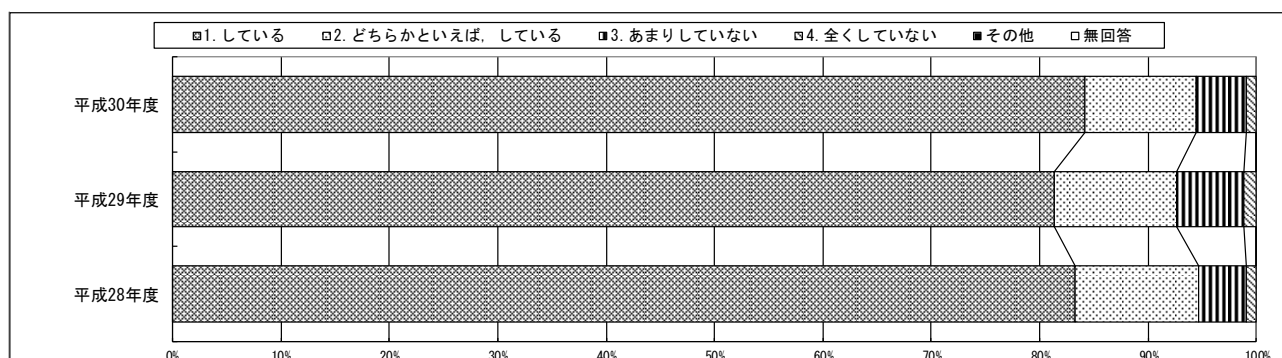
自分が生きる自分の人生の中では自分は主役であり、人との関わりの中では自分は脇役になる場面もあります。またそれと同時に社会を作っているスタッフである自分もいます。このことは、自分自身が主体として社会を生き、他者との関わりの中で社会を作っていることを意味します。

ドラマが起こっているステージは大小様々ですが、そのステージの一つである町、地域、学校を支えているのは、他ならぬ家庭です。学校教育というステージは、家庭での日々の取り組みがあって初めて成り立っています。それぞれの家庭が主体となって行っていることが大きな力となって、学校を、児童・生徒を支えています。前段の話と関連付けると、子どもに関わる大人は誰もがコーチにも、スタッフにもなれます。選手とコーチが信頼関係を安心して結ぶことができるのも、スタッフによる支えがあるからこそだと言えます。

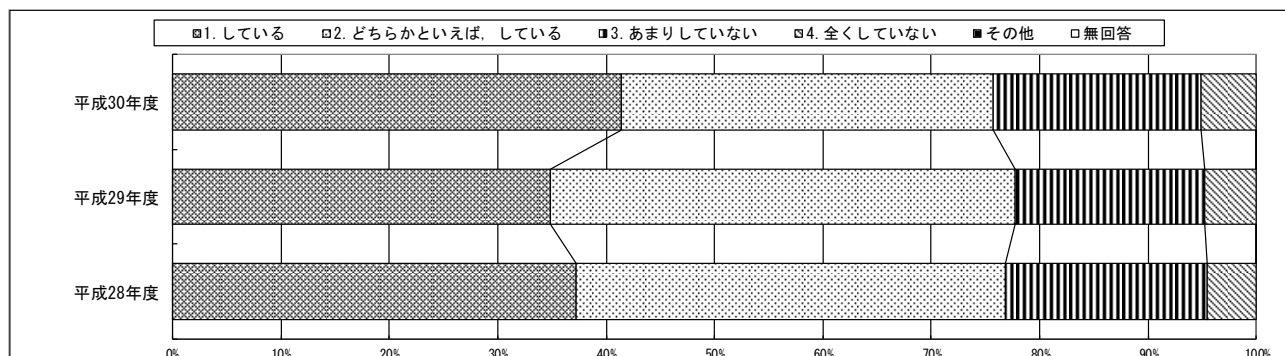
このことを示している質問紙調査は次の通りです。

【小学校児童質問紙】

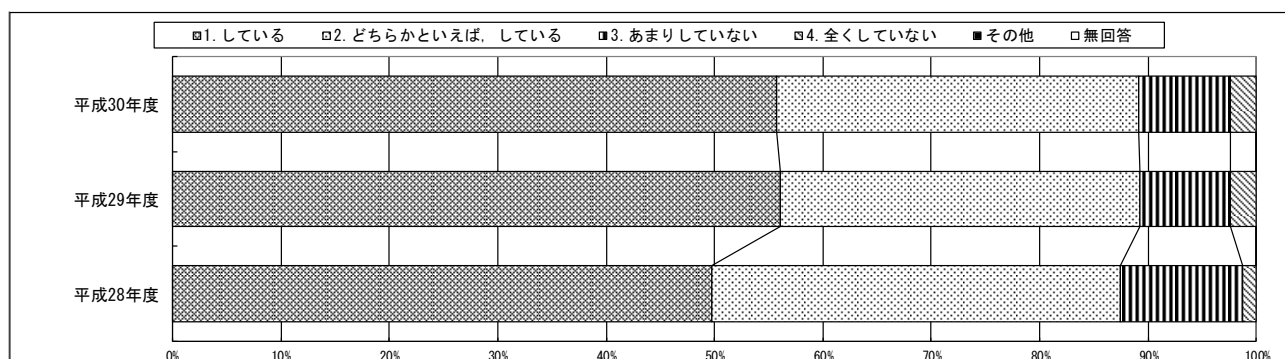
質問番号	質問事項									
(7)	朝食を毎日食べていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	84.2	10.2	4.6	1.0			94.4		0.0	0.0
平成29年度	81.3	11.3	6.2	1.2			92.6		0.0	0.0
平成28年度	83.3	11.3	4.5	0.9			94.6		0.0	0.0



質問番号	質問事項									
(8)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	41.4	34.3	19.2	5.1			75.7		0.0	0.0
平成29年度	34.8	42.9	17.5	4.8			77.7		0.0	0.0
平成28年度	37.2	39.6	18.6	4.5			76.8		0.0	0.0

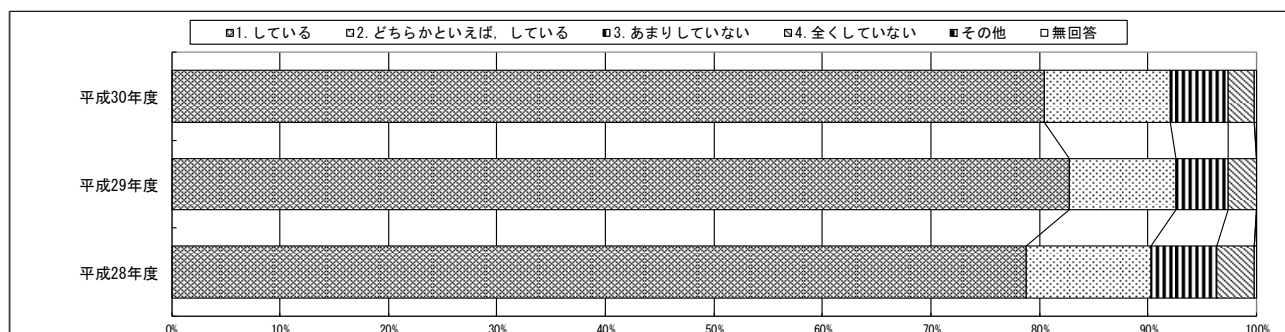


質問番号	質問事項									
(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	55.7	33.3	8.5	2.4			89.0		0.0	0.0
平成29年度	56.1	33.1	8.4	2.4			89.2		0.0	0.0
平成28年度	49.8	37.7	11.3	1.3			87.5		0.0	0.0

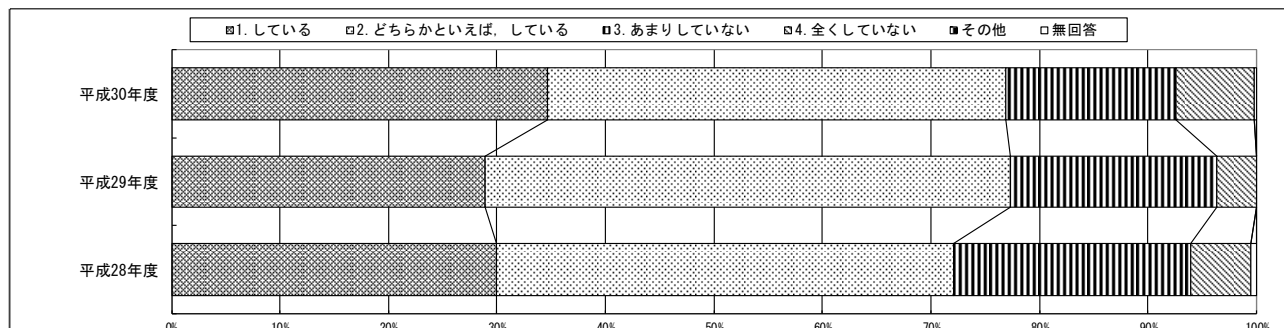


【中学校生徒質問紙】

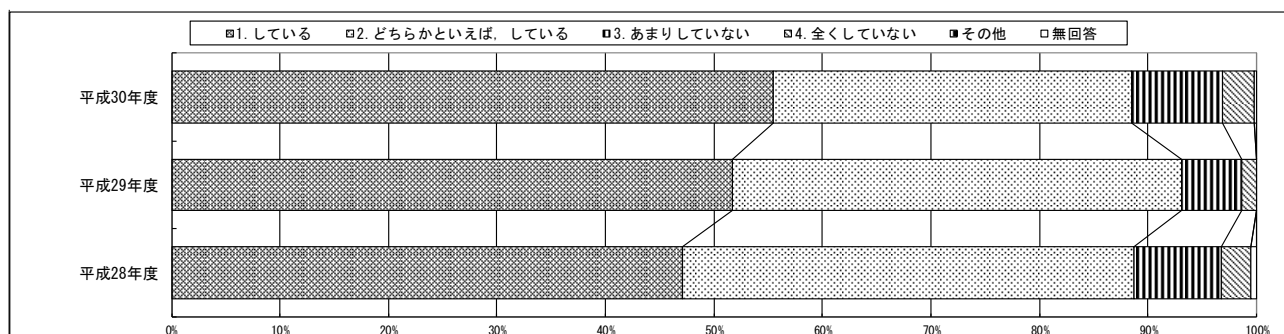
質問番号	質問事項									
(7)	朝食を毎日食べていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成30年度	80.5	11.6	5.3	2.4				92.1	0.0	0.2
平成29年度	82.8	9.8	4.8	2.6				92.6	0.0	0.0
平成28年度	78.7	11.5	6.1	3.4				90.2	0.0	0.2



質問番号	質問事項									
(8)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成30年度	34.7	42.2	15.7	7.2				76.9	0.0	0.2
平成29年度	28.9	48.3	19.1	3.6				77.2	0.0	0.0
平成28年度	29.9	42.2	21.8	5.6				72.1	0.0	0.5



質問番号	質問事項									
(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成30年度	55.4	33.0	8.4	2.9				88.4	0.0	0.2
平成29年度	51.7	41.4	5.5	1.4				93.1	0.0	0.0
平成28年度	47.1	41.7	8.1	2.7				88.8	0.0	0.5



これまでの調査でも基本的な生活習慣については、ずっと変わらずに家庭の支えがあることが分かります。これらのことは単に質問の内容について尋ねているのではなく、「学校に送り出す環境」があることを示しています。

確かな生活習慣を基盤として、児童・生徒が安心して学校に登校できる。前段の信頼関係については受け入れる側の条件が整っていること、そして生活習慣については送り出す側の条件が整っていることとなり、この両方がそろっていることで児童・生徒が学校で学習をする基盤ができるのです。

学習をする基盤が整い、主体的・対話的で深い学びを実現していく学習活動を展開していくことで、生きる力の育成につながっていきます。

現在の社会では、なりたい自分になること — 自己実現が大きな生きる目標となります。学校でも、職場でも周りとは協働してよりよく生きることが大事であり、他者から認められ、自分自身を認めていくことで、自己実現につながっていきます。ありのままの自分を受け入れ、自分のよいところを認められる。学習においても同じことが言えます。

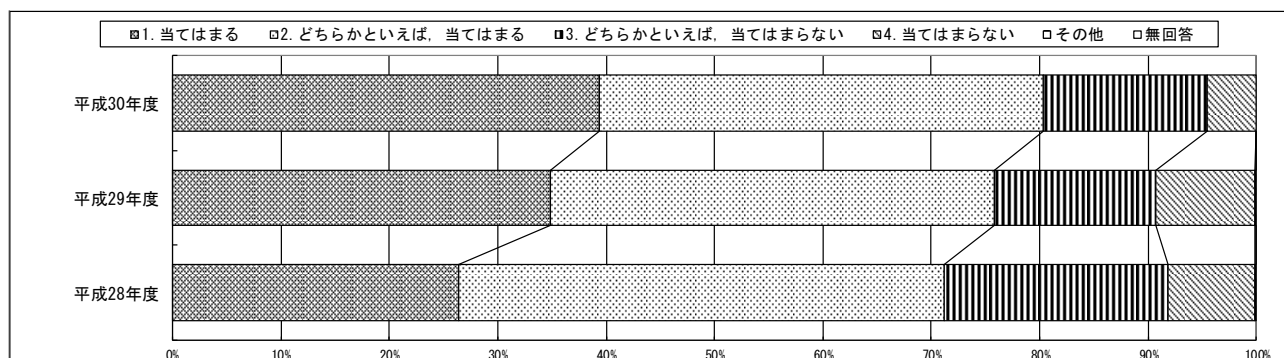
詰め込み型の学習では、「勉強はするけど、勉強は嫌い」という自分がやっていることを認められない児童・生徒を育てることにつながる可能性があります。これからの社会を担

っていく児童・生徒には、確かな生活の基盤と生きる力¹を持って、自分自身を認められる生き方ができるようになってほしい。これは今の社会を作っているスタッフ全員の願いです。

今回の調査を受けた寒川町の児童・生徒については、みんなで支えているその願いでできている環境の中で学習を行っていることが結果から分かります。

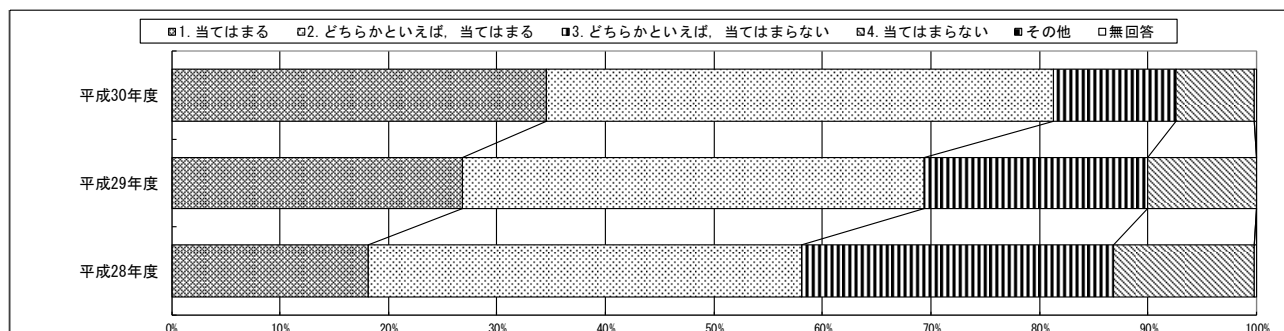
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(1)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	39.4	40.9	15.1	4.6			80.3		0.0	0.0
平成29年度	34.8	41.0	14.9	9.1			75.8		0.2	0.0
平成28年度	26.4	44.8	20.6	8.0			71.2		0.2	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(1)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	34.5	46.7	11.3	7.2				81.2	0.0	0.2
平成29年度	26.8	42.6	20.6	10.0				69.4	0.0	0.0
平成28年度	18.1	40.0	28.7	13.0				58.1	0.0	0.2



自分自身を認めるということは、自己肯定感という言葉で言い換えられます。そして、自己肯定感が育まれているということは、児童・生徒の頑張りを認めているスタッフがいることを示しています。寒川という地域、寒川町の学校、ここにある家庭が頑張りを認めているからこそ、次の学びに向かう力⁸を育みます。

家庭、学校のみならず、町全体で児童・生徒を認めることが、真に学力を育む土台を作ることになるのです。その土台が作りが進行していることを、今回の調査結果は示してい

ます。

現在の寒川の教育は、これまでに述べた現状があります。

これからの世の中を生きていく力をつけていくために必要な土台は、それぞれが行っていることを統合し、意味づけをすることで、その強度や効果が大きく変わっていきます。

児童・生徒や保護者の日常の取り組みや努力が生きる力の育成につながっています。また、課題を適切に捉えて授業改善のために研究している学校の先生、また、それに協力いただいている地域の方々についても、これまでの取り組みは新学習指導要領が示す方向と同じです。

できていることばかりではなく、できていないことにも目を向ける必要はありますが、取り組みのよさについて評価することが、児童・生徒や保護者、学校、地域の方々の自己肯定感を育むことにつながります。それが次の取り組みにつながる原動力になっていくのです。

8 【新学習指導要領との関連：資質・能力の三つの柱】 ○全ての教科等や諸課題に関する資質・能力に共通し、それらを高めていくために重要となる要素については、海外の事例や、カリキュラムに関する先行研究等に関する分析によれば、知識に関するもの、スキルに関するもの、情意（人間性など）に関するものの三つに大きく分類されている。前述の三要素は、学校教育法第30条第2項が定める学校教育において重視すべき三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）とも大きく共通している。

①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

（次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ 5(2)より抜粋）